

CCUS研究開発・実証関連事業

資源エネルギー庁資源・燃料部
石油・天然ガス課

令和5年度予算額

80 億円 (82 億円)

事業の内容

事業目的

CCS（二酸化炭素回収・貯留）は2050年カーボンニュートラルの達成に向けて鍵となる技術であり、北海道苫小牧市にある我が国唯一のCCS実証試験センターを核として、CCU（二酸化炭素回収・利用）実証も可能とすることで、苫小牧のCCUS（二酸化炭素回収・利用・貯留）拠点化を目指します。本事業により、CCUSの事業化に不可欠なCO₂長距離輸送技術開発及び安全かつ低コストなCO₂貯留技術の研究開発、回収CO₂を利用したメタノール合成等技術の実証、CCS大規模実証試験で圧入されたCO₂の監視（モニタリング）、状況分析等の実施を目的とします。

事業概要

2030年までのCCS事業化に向け、以下の事業を実施します。

- (1) 苫小牧での大規模実証：CCS大規模実証試験において圧入したCO₂分布の分析及び海域の状況等について、海洋汚染防止法に則り、監視（モニタリング）します。
- (2) CO₂長距離輸送実証：船舶による液化CO₂の長距離輸送の実証をします。
- (3) 回収CO₂利用メタノール合成等実証事業：事業所で排出されたCO₂を活用して商用規模のメタノール合成等実証を実施します。
- (4) 安全なCCS実施のためのCO₂貯留技術の研究開発：CO₂貯留技術に関する安全性を担保した、低コストかつ実用規模の安全管理技術の確立を目指した研究開発を実施します。

事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）



成果目標

- (1) 令和12年（2030年）までのCCS事業化を目指します。
- (2) 令和7年度（2025年度）までに実用規模の安全管理技術の確立を目指します。